



認定特定非営利活動法人（認定NPO）

インド福祉村協会



会報

2015.9.1

Vol.28

India Welfare Village Society News

<http://iwvs.jp/>

インド福祉村協会

検索

E-mail / info@iwvs.jp

特定寄付金に税制上の優遇措置が認可（ボランティア募集中）

アーナンダ病院の様子を動画でご覧いただけます。



Movie 1
アーナンダ病院
15周年記念動画
1996年9月～2013年5月



Movie 2
アーナンダ病院
Memory動画
2013年～2015年

インド福祉村協会ホームページ（<http://iwvs.jp>「インド福祉村協会」で検索）、
またはYouTube（「YouTube インド福祉村」で検索）をご覧ください。

- ★アーナンダ病院開院17周年
- ★ネパール大地震発生
- ★新理事長就任挨拶、病院訪問記
- ★アクティシステム4名 病院研修レポート



ネパールM7.8大地震

2015年4月25日、ネパールでM7.8の地震が occurred. 5,000人の死者発生とすぐ推定されました。ネパールの人たちは地震に対する知識が全くありません。アーナンダ病院ではM4.5位でした。アーナンダ病院では建築時に良質の煉瓦、セメント、壁に入れる鉄柱を、日本式にしっかり建設しましたので、病院がかなり揺れ、余震もあり水道が止まったり、電気が一部切れたりしましたが、大きな問題はありませんでした。皆さんにはご心配をおかけしました。

このたび2015年6月1日より認定NPO法人インド福祉村協会の理事長に就任することになりました。

山本孝之名誉理事長が柴田顧問と一緒に1987年のインド福祉村病院建設準備委員会の発足から28年、インド福祉村病院（現地名アーナンダ病院）が開設されて18年となります。これほど長きに渡りインドのクシナガラという農村地域の中で、チャリタルな病院を継続することができたのも本当に多くの皆様のご支援の賜物であると大変感謝しております。また開院以来、現地で身を粉にして診療を続けてくださっているグプタ医師にも畏敬の念を抱きます。

今後、前理事長の三木先生より理事長職を引き継いでいくにあたり、非常に大きな重責を感じていると同時に、このような大変魅力のある職責に就いたことをとても誇りに思います。

歴史的にも日本とつながりが深く、21世紀における重要なパートナー国となるであろうインドの十分な医療を受けることができず困っている人々に対して、私たちが少しでも力になれるよう、なお一層努力をしていく所存であります。

皆様の益々のご支援とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



就任のご挨拶

理事長 山本左近

クシナガラ（北インド・ウッタールプラデーシュ州）

インド福祉村病院（現地名アーナンダ病院）
開院十七周年

インド福祉村病院 訪問記

新理事長 山本左近

2015年3月1日から3月6日までインド福祉村病院(現地名アーナンダ病院)へ訪問しました。ネパール国境の直ぐ近くの仏陀入滅の地であるクシナガラに到着した時には夕方を過ぎていたため、その日診察を終えたグプタ先生に暖かく迎え入れていただきました。

グプタ医師とはインド福祉村病院設立15周年記念パーティーの時に久しぶりに会い、次回会う時は、私がインドへ行き病院で会いましょうと約束していましたが、私の再会を本当に嬉しそうに迎えてくれたことを感謝しています。この日は夜の食事を一緒にとり、ホテルでゆっくり休みました。

翌日の3日は朝から病院に訪問しました。この日から2日間、病院に宿泊しました。病院は8時30分から受付開始をし、10時30分から診療開始となります。1日中診療の様子を見ていましたが、本当に大勢の患者さんがこの病院の診療を頼りに来ていることを実感しました。病院に宿泊していましたが、6時半ぐらいから患者さんが門の前でこの病院が開くのを待っている光景を目にしました。これだけこの地域の人のみならず、遠くからもこの病院へ来たい、インド福祉村病院で診療を受けたいという人々が多いうことは、この病院とグプタ先生の信頼がとても厚いのだと思いました。

村の周辺の農村地域の村もいくつか回ってみました。すぐ近くには、カースト制の中の最も低い身分にも入らないカースト制度の外側の「アチウト」と呼ばれる不可触民の村もありました。インド福祉村病院はポリシーとして、No Caste, No Color, No Religionであり、どんな人でも困っている人がいたら、差別することなく、手を差し伸べる病院です。病気になる人だけでなく、妊婦さんの指導や感染症を予防するための医学講話なども積極的に予防医



(握手するグプタ医師と山本理事長)



(血圧を測る人)



(村の風景)



(子どもたち)

療の活動もしております。

村の人々の生活は日本人の生活とは全く違い、何百年も前の生活かのような暮らしぶりをしていましたが、それが私たちに与えてはすく新鮮でした。しかしに日本のように整った環境ではないかもしれせん。しかし、ここでは家族と共に暮らし、私たち日本人が豊かになれるほど忘れてきてしまったものがあるのではないかと感じさせるところでした。

お釈迦様が入滅された仏教の歴史的にも重要な土地にあるインド福祉村病院。たった3日半ではありましたが、朝早くから遅くまで病院や病院の周りで過ごすことで、まったく何も無かった土地に病院ができたことで人々がそこに移り住んできた、近くの幹線道路でお茶屋さんなどの商売を始める人が増えたりとか、ただ病気の治療をするだけではなく、その地域の町としての機能も病院があることで村が活性化していることを目の当たりにし、人々の生活における医療の重要性を再認識できました。

今回の訪問では、人間の生活において重要な医療という最も大切な部分を私たちが底支えるお手伝いができていることに感銘を覚えるのと同時に、これから発展していく21世紀のインドにおけるインド福祉村病院の役割というものを今後しっかり考えていかなければならないということを感じました。本当に短いインドでの滞在でしたが、この短い間に多くの発見もあり有意義な滞在となりました。これからもインド福祉村協会とインド福祉村病院の継続的な発展を支えるとともに、また現地を訪れる日を楽しみにしています。

【患者数】 男性36% 女性64% 小児10%

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目
総患者	15,310名	21,140名	18,606名	16,910名	20,636名	22,578名	21,573名	21,275名	15,310名
新来患者	6,756名	7,946名	6,247名	5,593名	7,547名	8,191名	8,274名	8,143名	6,756名
再来患者	8,554名	13,194名	12,359名	11,317名	13,089名	14,387名	13,299名	12,800名	8,554名

	10年目	11年目	12年目	13年目	14年目	15年目	16年目	17年目	統計
総患者	24,237名	22,548名	22,623名	18,287名	19,519名	19,212名	20,457名	22,366名	351,027名
新来患者	9,680名	9,217名	9,245名	7,452名	8,161名	7,897名	8,970名	11,370名	139,916名
再来患者	14,557名	13,331名	13,378名	10,935名	11,358名	11,315名	11,487名	10,996名	211,111名



(アーナンダ病院全スタッフ)

現地住所

ANANDA HOSPITAL TEL:91-92354-24671 / 91-5564-217544

住所:VILLAGE SIRSIA DIST KUSHINAGAR 274403.UP.INDIA

研修レポート

アクティシステム花井美加子

クシナガラはブッダ入滅の地です。クシナガラでは外国人観光客が圧倒的に少ないと感じました。逆にインドの学校の生徒の団体を多く見かけました。「無教育」と「病氣」と「貧困」の負の連鎖を断ち切り、子供が学校に行くことが出来るのは、病院のおかげだと思います。

アーナンダ病院周辺の集落とアーナンダ病院の見学をしました。周辺の集落では生きていくために牛、羊や鶏を飼っていたり、マンゴーや麦などの植物を育てたりしていました。貧しい農村でしたが、子供たちは元気で活力にあふれていると感じました。私たちが集落の人々に挨拶をしている時、大人の女の人は私の想像通りあまり外に出たがりませんでしたが、子供たちは男女関係なく近くまで会いに来てくれました。世代が変わることで女性への見方が変わりつつあると感じました。

アーナンダ病院ではグプタ先生の診断を見学させていただきました。先生は「face to face」を大切にしているそうです。診断を見ているも、患者との会話を大切にしています。患者は家族と一緒にいる場合がほとんどで、付添の人が症状を説明していました。グプタ先生は患者がどう感じているかを確かめています。丁寧な対応からか、イスラム人など遠いところからわざわざ



(ラマパール・ストゥーパ)

ろからわざわざアーナンダ病院まで来ている人もおり、広い範囲で良い評判が広まっているのかなと思います。

研修レポート

アクティシステム 鷹尾賢三

病院では、安価な料金でベーシックな検査、治療を行い、ひどい場合には他の病院へ引き渡している。より多くの人に医療を提供する、またそれ以上に公衆衛生、生活向上を与える広く意味のあることである。

この活動を行うのに、ただ医学の知識があるだけではできないと感じた。広い視野をもつて現状を認識し、必要なことを適切に行う、人を集めて信頼を得ることで成り立つものであり、グプタ医師のような人にしかできないものである。患者の方々も医師を信頼し、頼りにしていることが感じ取れた。また、医師には丁寧にもてなしていただきたい、その振るまいからも、人を大事にし、向上心あふれる方だという印象を受けた。

またこの活動自体、貧しい地域にしか適しないものかと言われれば、そんなことないと思う。日本でも一般的な診察の前にベーシックな診察を受けることで診察の効率が良くなるだろうし、アーナンダ病院の活動はその意味で一歩先へいっているという見方もできると思う。

病院にこられた患者の方も、話しかけると興味を持って接してくださった。言葉こそ通じないが、絵や写真などを見せると表情豊かになり、一人の人に声をかけると、周りに人が集まってくるのが印象的だった。



(診察風景)

研修レポート

アクティシステム 竹中千裕

インドでは非常に貧しい人々がいるのだが、アーナンダ病院周辺の村の住人も殆どは董のような植物で屋根を作り、テントのような形にしただけである。家財道具も洗濯用のたらいと毛布、腰掛けくらいしか見当たらないところが殆どだ。この村に住む人々は農業で生計をたてている。現に、家の中に牛が一緒にいる家や近辺にマンゴーのような果物の木も多かつた。

このような村で月間平均消費額が500ルピー前後という人々にとっては医療費にお金をかける余裕がない人が大半と考えてよいだろう。アーナンダ病院には一日あたり1000人を超える患者が来るが、このことは病院の診察料を払う余裕のない人が多いことを示している。アーナンダ病院のグプタ先生は一人につき一分もかかっているのではないかとというスピードで患者を診ていたが、それでも開業当初は特に、お昼ご飯を食べる暇もなかったそうである。

こうした患者の多くはマラリアなどの感染症である。このマラリアという病気は本来ならば蚊帳のような道具や蚊取り線香などで蚊に



左下はオートクレーブという微生物を加熱殺菌処理する機器。衛生管理に欠かせない。右下はインキュベータ（培養機）。テーブルの上には遠心分離機、成分分析機などが並んでいる。



(アーナンダ病院近くの村の親子)

刺されないようにすることで予防できる病気がある。実際、アーナンダ病院には蚊取り線香があるので私たちも使わせていただいたがマラリア予防の点からも必要なことだった。一方、こちらの村では蚊取り線香ももちろん見当たらず、感染症予防をする金銭的余裕が無い事が伺えた。そうしたなかで、グプタ先生は手洗いなどの予防策を広めるようにも努めておられることを伺った。村の現状を踏まえて、手洗いなどのコストが低い予防法を提案することが最も効果的なのだろうと感じた。

アーナンダ病院はアクティシステムなどの寄付によって運営されている。開院当初は医療用品も十分でない状態で診療が行われていたということが研修を受ける前に見せていただいたビデオで知っていた。今回の研修では、そのビデオが撮影された当時と比較して道具や薬がよく揃っている状況を見て取ることが出来た。

アーナンダ病院での診察を見せていただいた期間、患者さんたちとも少し話す機会があった。患者さんの殆どがヒンドゥー語のみを話す人々であるが、一部には英語がわかる人もあり、診察室の前で待つ人々を相手に日本の風景の写真を見せて日本の様子を紹介することが出来た。

日本の漫画やアニメはインドでも知られているようで、病院の入り口の壁にもトプエもんやアンパンマンのイラストが描かれている。そうした事情があるからか、とても日本の様子には興味を持っていただけたようだった。

アーナンダ病院とクシナガラ村を見学してきました。それまでに行ってきたインドのアーグラーやデリーとはまた違った光景が広がっているのを印象的に感じました。クシナガラは都会と比較して貧しい村でしたが、見学してみても気づいたことがいくつもありました。

まず、発電機を回していました。夜中は発電機で貯めた電気でまかなっていましたが、さすがにエネルギーが足りなくなると、夜中になるとときどき停電したりすることもありました。

次に、どの村でも日本製のバイクや車があるということです。アーナンダ病院には当然ながら救急車はありますが、村の中の細い道でも普通にバイクで走っている人を何度か見かけました。貧しい村ではありますが、車を持って維持するだけのお金はあるということが意外でした。

アーナンダ病院を見学していると、日本人が寄付をしている

のもあって、日本語で書かれている看板や、日本のアニメのキャラクターが書かれている壁を見かけました。インド人にこれが伝わっているのかは分かりませんが、少しでも患者をもてなそうとしていることを感じました。

アーナンダ病院での医者はグプタ先生一人だけです。医療器具は血圧機や聴診器など、必要最低限のものしかありません。

アーナンダ病院を見学して、たくさんエネルギーを感じました。特に、人のために全力を尽くして治療していくというのはなかなか簡単にはできません。自分も今何ができるか、これから勉強して何ができるようになるのかを考えて、人のために動けるような人になりたいと思いました。この2日間は非常に有意義なものになりました。



(日本のアニメのキャラクターが書かれた壁)

2014年4月～2015年3月のあゆみ (H26.4月～H27.3月)

14.4月	● 会報26号発行(アーナンダ病院開院16周年) ● JICA中部NGOS交流会 大竹理事参加
5月	● IWVS理事会-通常総会(名古屋)
6月	● JICA中部設立祝い会 大竹理事参加
7月	● 三重大学医学部 竹村洋典教授、学生長野有花子さん、中野恵理さんアーナンダ病院訪問
8月	● 大竹理事アーナンダ病院訪問 ● インド独立記念日祝賀会
9月	● IWVS理事会(豊橋)
11月	● インド物産展開催 さわび福祉村病院文化祭・瑞忍寺 報恩講 ● JICA中部地球祭り 大竹理事参加
12月	● IWVS理事会(名古屋) ● 中村理事アーナンダ病院訪問
15.1月	● 大竹理事アーナンダ病院訪問
2月	● アーナンダ病院屋上・外壁・内装修理開始
3月	● IWVS理事会(豊橋) ● 新組織案として 理事就任 山本左近氏、理事就任 三瓶宏一氏、監事就任 村田智氏 ● 遠隔医療3年間4万人成果国際学会発表 三瓶宏一氏 ● (株)アクティビティシステム4名アーナンダ病院訪問 ● 竹中千裕さん、花井美加子さん、河原章悟さん、鷹尾賢三さん ● 山本左近氏アーナンダ病院訪問 ● JICA-JPP事業スキーム講習会 大竹理事参加 ● 新アーナンダ病院紹介DVD作成
15.4.15	● ネパール大地震M7.8発生



(涅槃堂)



(ミーティング風景)

認定特定非営利活動法人
(認定NPO)

インド福祉村協会

(IWVS)

インド福祉村協会は、民族、宗教を超えて日本とインドの両国民が共通の価値観を共有し、互いに学び合うことを理念として、インド国の医療に恵まれない人々に対して、プライマリ・ヘルスケアを中心とする診療活動と保健衛生活動及び不就業児童らに対する教育活動を行うことによって、インド国の医療の充実及び幼児教育の充実を図り、もって両国の友好に寄与することを目的としています。診療活動としてクシナガラにてインド福祉村病院(アーナンダ病院)を開設、運営を行っています。

ホームページ <http://iwvs.jp/>

入会のお願い

正会員:年会費 5,000円 …… 総会の議決権があります。協会の会報を毎回お届けします。プロジェクトの進み具合、現地の情報を逐次お知らせします。現地宿泊の便宜を図ります。

賛助会員:年会費 1,000円 (一口以上) 総会の議決権はありません。協会の会報をお届けします。

特別会員: 100,000円 (一口以上) 代表一名を正会員として登録します。その他正会員と同様。

寄付会員: 円 ※自由な金額を寄付できます。

【会費・寄附の支払い方法】

郵便振替 口座番号:00830-2-65008 加入者名:インド福祉村協会

郵便振替用紙を利用し、最寄りの郵便局より手続きを行ってください。ご一報いただければ振替用紙をお届けします。

銀行振込 ゆうちょ銀行 口座番号:0065008 支店名:089 口座種別:当座 加入者名:特定非営利活動法人インド福祉村協会

入金が確認されましたら領収書をお送りします。寄付金は、税制上の優遇措置が受けられます。

募金のお願い!

少しでもあなたの善意を
分けて下さい。

インド福祉村協会 (INDIA WELFARE VILLAGE SOCIETY)

理事長/山本左近 専務理事/高木元晃 常務理事/大竹紘一

理事/三木隆治、伊藤孝道、中村義博、田中久子、K・L・バハール、樋口恵子、加藤伸也、吉田晃

事務局長/請井政広

ホームページ/<http://iwvs.jp> E-mail/info@iwvs.jp

■ 発行者 インド福祉村協会 (IWVS)

■ 発行人 山本左近 ■ 編集 大竹紘一 ■ 協力 文創社

■ インド福祉村協会事務局

〒441-8124 愛知県豊橋市野依町字山中19-14

TEL:0532-46-7511 FAX:0532-46-4899